

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第24号

2015.9.28 (月) 発行

9月24日(木)講演会の概要を坂野雄大先生がまとめてくれました。ありがとう！

【はじめに】

先日は、テスト勉強期間にもかかわらず、私の講演を聞きに来て下さったみなさん、本当にありがとうございます。今回先日の講演をテーマ毎に分けて再構成しました。ここだけの加筆もあるので、講演に参加した人も、そうでない人も一読頂けると嬉しいです。

【青年海外協力隊とは？】

2年間開発途上国に行き、自分の専門分野を活かして、仕事をする。私は、パプアニューギニア（オーストラリアの北）という国に、数学教師として派遣されました。選択肢となりうる国は約80カ国。職種は約120種にも及びます。例えば、先生、看護師、薬剤師、理学療法士、自動車整備士、デザイナー、スポーツなどなど、特別な資格がなくとも行動力を武器に応募し派遣される人もいます。以下、協力隊員が2年間で実際に行った事例を紹介します。

看護師隊員：日本では当たり前の母子手帳を普及

村落普及隊員：新しい観光資源を開拓し、村人の収益アップに貢献する

柔道隊員：赴任した国のナショナルコーチとなり、ロンドン五輪にコーチとして参加

【坂野の興譲館生時代】

私も、そんな協力隊員のひとりだったわけですが、高学歴で優秀な人しかできないのでは？と思った人もいるのではないでしょうか？確かに優秀な人（学歴は様々です）は多いですが、少なくとも私は学生時代、そんなに優秀な生徒ではありませんでした。特に英語に至っては悲惨で、先生、同級生によく笑われていました。結局は、センター試験では100点も取れず、悔しい思いをしたことを今でも覚えています。しかしそんな私でも、パプアに赴任して3ヶ月もすれば、英語&現地語での授業にも慣れ、1年も経てば生活に困らないレベルになりました。高校時代出来なかった分、まだまだ自分には伸びしろがあったんだなって思いましたね（笑）

【なぜ協力隊に】

ここで、なぜ私が協力隊を選択したのかと思った人もいるのではないでしょうか？理由は2つ。1つは、『自分の理想の教師像』に近づくため。というのも、私は小さい頃からずっと教員になることが夢でした。しかし、大学に進学して、勉強していく中で教員なるためではなく、自分の理想とする教師『自分の言葉に責任が持てる教師』になるために頑張りたいと思うようになりました。では、どうすれば自分の言葉に責任を持てるのか？そうか！いろんな経験をして、生徒に自分の経験から来る生の声を伝えられればいい！ならばいっそ海外に行って本気で仕事をして来よう。そう思ったのがきっかけ。

そして、2つ目は日本では味わえない経験を積んで『教員になってからの伸びしろ』を広げるためです。教員になってから行くという選択肢も実はあるのですが、社会経験を積むに連れて、行きたいと思った時に行けるとは限らない！そう考えれば行けるチャンスはどんどん低くなる。ならば行くなら今しかない！と思いました。

【パプアニューギニアって？】

では、私がいたパプアニューギニアを紹介。パプアは日本とは切っても切れない関係の深い国。なぜなら、私がいた島にある町ラバウルには一時10万人の日本兵がおり、戦時中の激戦区であったから。ちなみに、パプア初代首相の方は、戦時中日本兵から勉強を教えてもらっていたということ国民全体すっかり親日家！面積は、日本とほぼ同じ、人口は約20分の1。特出すべきは、言語数。何と480言語存在すると言われています。これは、置賜、村山、最上、庄内が全く違う言葉をしゃべっている感覚。（普段は、全国共通の現地語か英語を話しています）よってパプアでは同じ言葉をしゃべる奴は仲間だ！助けなければならない！という意識（『ワントクシステム』）がとても強い。だからこそ私が帰国する際、『お前はうちの部族の一員だ。だから、我々部族の伝統衣装で送り出してやる！』と言って頂いたのはうれしかった。伝統衣装で参加したお別れ会は本当にいい思い出です。この時の写真に興味がある人は是非坂野まで！グリーンマンが待っていますよ（笑）

【どんな暮らし】

住んでいたのは教員住宅。まあ、50センチぐらいのネズミが出る以外は問題なし。もともと、がさつだったので、外の林の中にあるボットン便所で用を足し、雨水を汲んでシャワーを浴びる生活にもすぐ慣れました。食べ物は、毎日夕方4時ぐらいになると、道ばたで奥様が野菜や果物（バナナやパイナップルがめちゃくちゃうまかった！）を売り出すので、それと週末町中で買い物をした食材使って自炊していました。米やパスタもちゃんとあるんですよ。



任地の町並み



伝統衣装の現地人（お祭りにて）

【パプアの教育現場での洗礼】

さて、そんな環境で始まった私の2年間。まあ、最初は大変でした。覚えてきた英語は伝わらないし、英単語の読み方も違う。そして、1番厄介だったのが、時間感覚の違い。もう、20、30分の遅刻なんて当たり前。朝の本来の朝会開始時に時間通り来ている生徒は約2割。式典の開始時刻が2時間遅れることも普通にあります。そして時間割は、本当に突っ込みどころ満載。日本人である我々にとってはもはや崩壊状態。そのカオス具合は是非講演参加者にお聞き下さい。生徒の学力はというと、私が指導する7年生、8年生（日本で言う中学1、2年生）で九九を暗記している割合はそれぞれ20%、40%。基礎計算力がないため、どの分野をやっても正解にたどりつけない生徒がほとんどでした。

（裏面↓へと続きます）

【充実した2年間】

しかし、2年間という限られた中で出来る限りのことをしたい！そう思った私は、彼らの時間感覚にメスを入れるのは難しい。なぜならそれが、彼らの文化でもあるから。ならば、生徒の進学したい！という夢を後押しするために頑張ろう。そう思いました。そのために、生徒の基礎計算力をあげることに全力を注ぎました。今思い返せば、本当にいろんなことをやりました。ドリルや100マス計算を導入したり、同期のパプアニューギニア教育隊員と一緒に数学の教材を作ったり。同じ教室に、小学校1年生から中学校3年生の学力の生徒が同時にいる状態だったので、授業はまさにカオス！しかし、自分が頑張れば頑張るほど変わっていく生徒たちの様子を見て、充実感と手応えを感じていました。

ちなみに、その成果もあって生徒達の九九の暗記率は7年生が7割、8年生が8割に上がりました。100マス計算は、日本で言う文部科学省でプレゼンをさせて頂いて、教育番組に導入して頂くことができました。最後に数学の教材については、これまでパプアで築いた人脈をフル活用して校長会議やラジオ番組出させて頂き、多くの熱意のある教員に届けることが出来ました。

【みなさんに伝えたいこと】

こんな話をすると、『坂野先生は行動力があるなあ』と思った人もいないのでしょうか？しかし、私だって新しい1歩を踏み出すときはいつも躊躇するし、すごく緊張します。正直、『次の機会がいいか〜』って思ったりもします。でも、もし今自分が動いたら、生徒の未来が開けるかもしれない。この国の多くの人々の力になれるかもしれない！そう考えたら、そりゃあ、動くでしょ！同じチャンスは2度と来ない。次の機会を待てばいい。でも、本当に次にその機会は来るのだろうか？そう考えると動かないで後悔することの方が私は怖くなってきます。これは日々の学習においても言えることだと思います。だからこそみなさんには、授業中分からないことがあっても、質問を後回しにし、そのうちやると言って復習を疎かにするようにはなってほしくないなあと思います。何事も今日この1回で理解する！毎日が真剣勝負！という気持ちで臨みたいものです。そして、2年間生活し仕事をする中で『自分の故郷への理解』『相手の価値観を認めること』は円滑な人間関係を築く上で、この上なく大切であることを学びました。だからこそ、自分の中に比較する知識なくして新しい出会いに真に感動することはできないのだと思いました。

【最後に・・・】

もちろん協力隊には辛いこと、大変なこともたくさんあります。治安にも十分気をつけなければなりません。しかし、何と言っても視野を広げることが出来るのはもちろんのこと、人との出会いが一番の魅力だと思います。私は、パプアでの出会いもそうですが、様々なバックグラウンドを持った同じ国際ボランティアを志す仲間と出会えたことを誇りに思います。そして何より、人の役に立てるって幸せですよ。しかも、自分が必死に身につけてきたことを使って・・・

はい、それではここまでづらづらと書いてきましたが最後に、2組のTくんがしてくれた質問の答えを書いてこの記事締めたいと思います。

『今、私達がすべきことは何ですか？』

もし、将来やりたいことが決まっているのであれば、達成するためにすべきことを逆算し、今すべきことを意識しながら生活すること。しかし、まだ将来何がしたいか決まっていなくても多いはず。その人は、まずは『勉強から逃げずに取り組むこと』だと思います。確かに、得意でない科目の勉強をするのは辛いかもしれませんが、しかし、知見が広がれば広がるほど見える世界が変わってくるし、それは目標が定まった時の起爆剤に絶対なるはずです！

正直私自身、学生時代は英語が全く出来なかったのが本当に辛かった。そんな私が、英語と現地語で授業していたと言うのだからでも、不思議なものです。なぜ、生活に困らないくらいまでできるようになったのか？うーん、覚えなければ生きていけない環境だったことあると思いますが、一番は自分を信じていたことだと思います。というのも、どんなにテストが出来なくとも自分の事を『自分はバカだ、才能がない』と思ったことは1度もなかった。ただ、人よりも理解が遅いだけ、そう考えていました。教科を学ぶことの面白さは、ある程度時間も我慢も必要なのだと思います。伸びる時期は人それぞれ違うもの、私は大学に入ってからでした。でも、それは自分の勉強法を確立できたのが3年生の12月からだったから(遅すぎ笑)。つまり、今のうちからしっかり学習スタイルを確立させれば、みなさんは私とは違って大学入試まで間に合わせることが出来る、夢への大きな1歩を踏み出せるのです！

最後に、みなさんご存知のとおり、私はこの9月末日で任期が終了となります。残された期間、少しでもみなさんの力になればと思っているので、数学の質問はもちろん協力隊関係の話を聞きにきたい人大歓迎です。是非職員室に顔を出して下さい！

今日を含め残り3日間もよろしくお願いします。

追伸：

私が青年海外協力隊時代の活動ブログがあります。

題名は『たった1度の人生だから in パプアニューギニア』

興味がある人は、検索してみてください。



パプア教育隊員と作った教科書を使う生徒たち



帰国して約2年後、高校生になった教え子たちとの再会



お別れ会の様子。左が私で右が校長先生

=====

4月から米興に来てくれた坂野先生ですが、この9月をもって任期が終了となります。この6カ月の感謝の意をこめて、ささやかですが有志での送別会を計画しました。

*日 9月30日(水)

*時間 13:10~13:40

*場所 大多目的室

なお、この件について坂野先生には秘密です。

問い合わせは、横山まで

=====